

2012年度(平成24年度) 事業計画

中期事業方針

当会は、会員や支援者の輪を広げ、繋がりを深めながら、以下の中期事業方針に基づき各種事業を計画・実施し、その具体的な成果を共に分かち合います。

1 「社会の発展及び自立は基礎教育の充実から」という考えに基づき、拡大する格差による貧困に苦しみ、教育施設の未整備なカンボジアやネパール等の開発途上国における学校建設を積極的に進め、『国連リニアム開発目標』にある、普遍的初等教育の達成に寄与します。

2 教育支援活動として、音楽・美術・衛生教育等に必要の人材育成に力を入れます。特に、カンボジアの全ての子どもたちが学校で音楽や美術を学び、豊かな情操を育むことができることを目指し、教育課程や教材の整備を積極的に進めます。

3 子どもの健全育成を図る教育支援活動に必要な楽器、教材等の支援物資を積極的に集めます。

4 教育支援活動の一環として、生活と就学が困難で養護が必要な当会の支援及び交流のある海外の子どもや、日本で研修や留学を希望する教員や学生などを支援します。

中期事業方針

5 当会及び協力団体の支援先にボランティアを派遣し「日本人の顔の見える援助」を行い、同時にそれを通じて次世代を担う日本の若者の「地球市民教育」を実践します。

6 他団体やボランティアと情報交換を密にしながら、国内外の災害時には、平時から募集する災害時の初動資金を元に、メンバーの派遣や後方支援などの貢献をします。



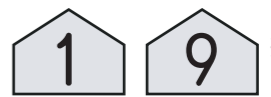
7 当会の財産である、共働学習経験や国際協力・多文化理解・共生などの豊富な実践的な専門知識を活かして、『国際ボランティア・カレッジ』を継続運営し、「国際ボランティア市民」としてグローバル社会で生きるとを志す人々に、国際NGOにふさわしい学びの場を提供します。

8 NGOネットワークに参加し、人権の擁護又は平和の推進、教育の質向上を図る活動や提言を行います。

9 機関紙やホームページ、報告会等を通じて当会の活動を広報すると共に、ボランティアや地域サポーターをはじめ、あらゆる支援者と繋がりを深めながら、JHPが目指す国際協力や教育支援活動の理解者を増やします。

10 各種募金活動、認定NPO法人の積極的な宣伝を行い支援者の拡大を図ります。また、事業の透明性の確保、個人情報保護や危機管理の徹底、事業実施や運営能力の向上に努めることにより対外的な信頼を深め、より安定した運営基盤を築きます。

1-1 学校建設事業(カンボジア)



※プロジェクトの背景はP.7参照

目標	<ul style="list-style-type: none"> ●カンボジア政府の教育予算では対処できないが、支援の必要性・緊急性の高い学校を調査し、教育環境の改善に即応する。具体的には、3部制の小・中学校の減少、老朽校舎の減少、教師の質向上に資する施設建設を目指す。 ●長期利用可能な丈夫な学校をつくり、維持管理を徹底させることにより、教育環境の整ったモデル校を普及させる。
中期事業計画(2012~14年度)	<ul style="list-style-type: none"> ①新校舎建設30棟、洪水被害等により必要な校舎修理を実施する。また、300棟目の校舎建設を20周年事業の取り組みとする。 ②国境周辺の遠隔地など、地域を限定した教育環境改善への取り組みに着手する。 ③2011年度までに建設した校舎の状態、活用状況、成果等の調査を行い、必要に応じた指導や継続支援を行う。
事業名	2012年度の活動内容、目標など
小・中学校建設	<ul style="list-style-type: none"> ①調査に基づき特に遠隔地の優先度の高い小学校、教室数不足の中学校から10棟を建設する。 ②新規建設校に対して、付帯設備(トイレ、井戸等)、学校備品、学習教材等を必要に応じて支援する。 ③上記①②の支援に関連づけて、設備の維持管理指導、衛生指導(トイレ利用、校内美化等)を行う。 ④上記③の衛生指導に必要な教材として、当会作成の「衛生教本」を各校50冊配布する。 ⑤建設校や候補校の視察、交流、贈呈式参列を希望する支援者をコーディネートする。
教員養成校建設	カンボジア国内の調査に基づき、建設の必要があれば学生寮や多目的教室棟等を建設する。
校舎修理	校舎をより長く活用するための助言や体制作りを含めて、既建設校を中心に3棟の修理を行う。
専門家派遣	丈夫で長期間使用可能な施設建設と建設後の維持管理方法の助言を得るため、一級建築士を派遣する。
特定地域支援	教育環境の整備が立ち遅れている地域を調査し、支援を検討する。(スラントレン州などの遠隔地や国境周辺地域)
全棟調査	<ul style="list-style-type: none"> ①2011年度までに建設した約280棟の調査を2年計画で行う。 ②調査校の情報管理を徹底し支援者に報告する。
継続支援	<ul style="list-style-type: none"> ①全棟調査等で確認したニーズに対して継続支援を行う。その際、学校予算の活用状況も併せて確認する。 ②既建設校の視察や交流を希望する支援者のコーディネートを行う。

1-2 学校建設事業(ネパール)



※プロジェクトの背景はP.9参照

目標	劣悪かつ危険な校舎の建替え、また教室不足解消のための新築により、教育環境の改善を目指す。
中期事業計画(2012~14年度)	<ul style="list-style-type: none"> ①新校舎建設5棟、バヌー学校の2階部分の増築を行う。 ②現地NGO登録を行う。年4棟以上の見通しが立った段階で日本人スタッフの駐在事務所開設を検討する。
事業名	2012年度の活動内容、目標など
学校建設	<ul style="list-style-type: none"> ①2011年度事業のバヌー学校(4教室)及びラストラ・ビジャヤ学校(2教室)を2012年6月に完成させる。 ②バヌー学校の継続事業として2階増設工事に取り掛かり、2012年度内の完成を目指す。 ③新規建設校2棟について年度内の着工を目指す。
支援体制構築	支援実績をもとに2012年度内にNGO登録の準備を行う。



オーブラムティーピー小学校贈呈式の様子

2 教育支援事業

事業背景	カンボジアは長期にわたる内戦により、教育環境が破壊された歴史を持つ。内戦終結後、国連やその他援助機関の支援を受けて、自立・復興への道を歩んできた。現在では、児童の就学率は上昇傾向にあり、教育環境や内容の充実を目指す政策も見られるようになってきた。しかし、依然として2部制授業が主であり、授業時間が少ないことにより、子ども達が情操教育に触れられる機会は少ない。
------	---

2-1 音楽教育支援 2 3 ※プロジェクトの背景はP.11参照

事業の目標と中期事業計画(2012～14年度)	<p>1)既対象地域への継続支援活動</p> <p>目標:これまで活動を実施してきた対象校が継続して音楽活動及び授業を実施することができる。</p> <p>中期計画:2010年度まで活動を実施してきた6地域、67校に対してフォローを行う。</p> <p>2)プレアジアヌーク州チアシム小学校音楽支援活動(2013年度～)</p> <p>背景:同校のサイ・ガエット氏は、当会が実施してきた音楽教員育成トレーニングの参加者の1人。現在は、当会トレーニングの講師役としても活躍している。同学校は児童委員会を設立し、より良い学校環境作りに努める模範的な学校であり、マーチングバンド(MB)活動を実施したいという要望が寄せられた。</p> <p>目標:・同小学校の学校活動としてMB活動が実施されることにより、学校運営と地域の活性化につなげる。</p> <p>・MB活動を通して、地域の住民へ広く音楽教育の大切さを伝える。</p> <p>中期計画:プレアジアヌーク州チアシム小学校(指導者:サイ・ガエット氏)の音楽活動を支援する。</p> <p>3)現場レベルでの音楽教育普及活動</p> <p>目標:</p> <p>・コンボンチュナン州、プレイベン州の対象校の教員がより音楽の基礎知識を身につけ、また社会科音楽分野の楽曲の知識を深め指導することができる。</p> <p>・対象校が音楽コンテストを通して子どもたちの発表の場を設定することの重要性を理解し、学校内で音楽活動を活用した学校行事を企画、運営する方法を習得する。</p> <p>・現行の学習指導要領の内容に沿った社会科音楽分野の補助教材を作成し、対象校で試用し、教育省に提案する。</p> <p>中期計画:対象校で音楽教育・活動が実施できるための体制を整え、音楽教育普及のための人材が育成されるように各種活動を行う。</p> <p>4)中央省庁関係者を対象とした音楽教育改善事業(JICA草の根パートナー事業申請案件)</p> <p>上位目標:カンボジア王国音楽教育の質が改善される。</p> <p>プロジェクト目標:教育現場で生かされる学習指導要領作成が可能となる。</p> <p>中期計画:教育省教材開発課の中にカリキュラム改善のためのワーキンググループ(教育省教員養成課、文化省職員を含む)を結成し、日本の専門家による研修会を実施する。同時に、対象校(プノンベン市内)の授業のモニタリング、教員への研修会実施、補助教材作成等を行い、常に現場の状況を把握しながら音楽教育の質を自主的に改善できる組織に強化するための各種活動を展開する。</p>
事業名	2012年度の活動内容、目標など
既対象地域への継続支援	①2010年度までの対象地域・対象校の音楽授業実態について調査を行う。
現場レベルでの音楽普及	コンボンチュナン州、プレイベン州の教育省スタッフ、県教育局、郡教育局スタッフ、小・中学校、高等学校教員を対象に、以下の活動を行う。
中央省庁関係者を対象とした音楽教育改善	①上述の中期計画を実施するために、7月までにJICA草の根パートナー事業への申請を行う。
	②具体的な活動は、申請結果が出た後から実施するが、年度を通じて関係者とのミーティングを行い、目標達成に向けた準備を行う。
	③不採用となった場合は、2013年度より自己資金で実施できるように計画と予算の調整を行う。

2-2 マーチングバンド支援 2 3

プロジェクトの背景	小中学校のクラブ活動(課外授業)の一環として、2000年に小山内代表の寄付と当会が募集した中古楽器により支援開始。2003年より当会事業に移行。2007年にはワットブノン高校マーチングバンド(MB)が徳島での国民文化祭、JHP15周年記念式典に出演。2009年12月にはマレーシアで行われた世界大会に出場した。
目標	①対象校の児童・生徒が音楽教育の重要性を知り、集団での活動によって責任感を養う事が出来る。
	②対象校の児童・生徒が音楽の基礎知識と楽器の演奏スキルを身につけ、向上させる事が出来る。
	③広くカンボジアの一般市民へ音楽教育の重要性を理解する機会を与える。
中期事業計画(2012～14年度)	①支援対象校3校については、2012年度と同様の活動を継続する。
	②カンボジアのMB全体のレベルアップのために、外部組織と連携して具体的な方法を検討する。
	③海外公演等の特別なイベントの出演依頼に対しては、都度理事会で協議して参加の可否を検討する。
事業名	2012年度の活動内容、目標など
マーチングバンドプログラム	①各学校長とのミーティング実施、②各校インストラクターとのミーティング(2ヶ月に1回)、③各校での通常練習(ワットブノン高校、クラップモイ小学校、サクラクバルチュロイ小学校、各校週1回)、④指導者派遣(専門家派遣:年2回、青年海外協力隊員1名)、⑤イベント企画・実施(8月12日の国際青少年の日のパレード他への出演)、⑥学校行事での演奏

2-3 美術教育支援 2 3 ※プロジェクトの背景はP.13参照

事業の目標と中期事業計画(2012～14年度)	<p>1)小学校へのアプローチ</p> <p>上位目標:小学校の美術教育の質が高まり、より多くの子ども達が美術教育に触れる機会を得ることが出来る。</p> <p>目標:対象校の多くの子ども達が質の高い美術教育を受ける機会が増え、想像力、創造力の向上に繋がる。</p> <p>対象地域を以下の通り区分し、それぞれの対象校、対象者に対して2年間にわたり支援を行う。</p> <p>①新対象地域への美術教育支援:2地域(カンボット州、スワリエン州)より29校、96名を対象。</p> <p>②既対象地域への継続支援:1年間3地域×2年間で合計63校、90名を対象。</p> <p>2)教員養成学校的美術教育支援</p> <p>上位目標:教員養成学校の美術教育の質が良くなる。</p> <p>目標:教員養成学校の美術担当教官が美術教育の重要性を理解し、子ども達の想像性を育むことが出来るような美術授業を実施することが出来る。</p> <p>中期目標:カンボジア全国の小中学校教員養成学校24校の絵画教師29名を対象とし、2年間の支援を行う。</p>
事業名	2012年度の活動内容、目標など
新地域への美術教育支援	①事業実施前の関係者意識調査(教育局職員、学校長、教員、子ども達、地域住民)
	②美術授業/活動の実施体制整備(学校長、教育局職員対象の研修会、校内講習会実施、画材寄贈等)
	③美術教育実施の為の人材育成(対象校教員、教育局職員対象の研修会実施、対象校内での研修会実施)
	④美術教育の重要性を伝える啓蒙活動(作品募集、審査会実施、巡回絵画展実施、画集作成及び寄贈)
既対象地域への継続支援	①美術授業の継続状況の確認と必要な画材寄贈
	②美術教育の重要性の啓蒙活動(作品募集、審査会実施、巡回絵画展実施、画集作成及び寄贈)
教員養成学校的美術教育支援	①スワリエン州、カンボット州の教員養成学校の美術授業のモニタリング(トレーニング前後に実施)
	②教員養成学校の美術担当教官を対象としたトレーニング実施
	③美術授業の継続のための画材寄贈
	④美術教育の重要性を伝える啓蒙活動(作品募集、審査会実施、巡回絵画展実施、画集作成及び寄贈)

2-4 児童養護施設等支援 4 ※プロジェクトの背景はP.14参照

目標	中期事業方針(4)の達成。CCHについては、子ども達が将来にわたり安心して生活や就学ができるように、運営費や教育基金の支援を行う。同時に、必要とされる教材、生活用品等を支援する。
中期事業計画	CCH第2期支援(2014年度まで)を継続。同時に評価を行い、第3期支援の必要性や内容について検討する。
事業名	2012年度の活動内容、目標など
児童養護施設支援	①現在約110名の子ども達を抱えるCCHの運営費(15,000ドル)、教材、生活用品等を支援する。
	②CCHの子どもが日本での職業訓練や研修機会を希望する際に受け入れに協力する。
研修サポート	日本での職業訓練や研修、ホームステイ等を希望する教員や学生の受け入れに協力する。具体的には、熊本県海外技術研修員制度へ、カンボジアの教育に貢献が期待される教員1名を当会が推薦する。

3 ボランティア派遣/災害支援事業 5 6 9 ※プロジェクトの背景はP.15,17参照

目標	中期事業方針(5)、(6)、(9)の達成。
中期事業計画 (2012～14年度)	①カンボジア隊派遣(年2回)を継続する。但し、学生を取り巻く環境の変化を考慮し、派遣時期や活動期間を検討する。 ②当会に賛同する組織の活動を受け入れ、会員や支援者の輪を広げる。特に大学の単位認定に繋がるプログラム構築に協力する。 ③緊急救援を含めた国内外派遣については、東日本大震災の救援活動を継続。その他派遣事業は、通常業務と並行してより多くの実績を上げられるように事務局体制を整備する。
事業名	2012年度の活動内容、目標など
カンボジア隊	年2回、延べ38名(役職員4名、経験者2名予定、学生・社会人32名)を派遣する。 ①8月隊:2012年8月1日～8月23日(予定)、②3月隊:2013年2月27日～3月21日(予定)
賛同組織受入	東京未来大学ボランティアプログラム(2012年12月予定)などの当会に賛同する組織の受入に協力する。
緊急支援を含めた 国内外派遣	①アフリカ隊:アフリカに毛布をおくる運動の構成団体として、4/28～5/6までエチオピアに2名派遣。 ②東日本大震災:宮城県南三陸町の災害ボランティアセンターと連携して、復興に必要とされる施設や備品の支援、ボランティア活動メンバーの派遣を継続する。 ③緊急支援:当会が支援対象とする地域や規模、支援内容を明確に定め、その範囲において災害救援基金を初動資金とした調査、活動を実施する。また、必要に応じて災害救援基金を呼びかける。 ④支援体制整備:緊急支援時にも通常業務が安定して継続できるような体制を準備する。 ⑤その他:関係諸団体等の要請や情報を得ながら、必要とされる国、地域にボランティアを派遣する。

4 啓蒙活動事業 3 7 9

事業目標	中期事業方針(3)、(7)、(9)の達成を通じて、活動に必要な財源確保、人材育成、各種募集を行う。
中期事業計画 (2012～14年度)	基本的には2012年度の事業を継続する。中期事業として特記すべき内容は以下の通り。 ①20周年事業関連 ・2012年7月14日の「天満敦子氏ヴァイオリンコンサート」を当会20周年事業のスタートに位置づける。 ・2013年9月の満20年を記念する主催イベントを実施する。 ・学校建設300棟記念に関連して、贈呈式に参加する記念ツアーを実施する。 ・2013年秋を目標に当会ホームページをリニューアルする。 ・2013年度の活動記録集を20周年記念号とし、特集記事を掲載する。 ・顕著な活動実績のある「地域サポーター」と20周年事業関連の連携を深める。 ②広報 会報のカラー化を皮切りに、紹介ビデオ等の広報ツールを全体的にリニューアルさせる。 ③絵画募集 日本とカンボジアの子ども達の文化交流の促進のために、日本の学校での絵画展実施に向けて準備をする。 ④地域ネットワーク 2014年度末には、各都道府県1名以上のサポーター体制を整える。
事業名	2012年度の活動内容、目標など
チャリティーイベント	①天満敦子氏ヴァイオリンコンサート【日時:2012年7月14日(土)、場所:津田ホール】 来場者が国際支援への関わりを実感し、カンボジアの音楽教育プロジェクトの支援に繋げることを目的とする。 来場者は450名(内、新規来場者50名)を目標とする。 ②チャリティーオークションパーティー(CAP)2012 【日時:2012年12月2日(火)、場所:アグネス ホテル アンド アパートメンツ 東京、定員:100名限定】 JHPの活動理念を推進し、楽しみながらカンボジアの教育支援に参加してもらうことを目的とする。 ③他組織主催イベントへの参加、協力 当会支援の目的で行われる他組織のイベントに対して、求められる範囲で協力する。
スタディツアー	当会の主な活動地であるカンボジアを紹介しプロジェクトを理解してもらうためのツアーを年1回実施する。 【日程:12月中旬～下旬、参加者目標:15～20名】

事業名	2012年度の活動内容、目標など
写真展	会員、活動参加者のリポート対策、会議室の有効利用、及び次年度カレンダーに適した写真や広報用の写真等の発掘を目的とする。また、来場者への活動紹介、会員入会案内を行い支援者を募る。 【日程:2012年5月14日～26日、場所:JHP東京事務所会議室】
報告会	①海外ボランティア活動参加者による報告会を年2回(5月、10月)実施する。その際に次回派遣の説明も行う。 ②2011年度に申請した助成金を通った場合は、上記①を含めて全国各地で年間8回開催する。 ③海外駐在員やローカルスタッフ、専門家の帰国報告会を実施する。(年3回程度)
機関紙発行	会報を通して会員や支援者へ活動報告・各種広報を行い、また活動への支援を呼びかける。 ①年3回3,300部発行。その他必要な情報発信の時期に合わせて年1～2回チラシ等を送付、②カラー印刷の継続、③希望者に対して会報データのPDF送信を促進、④透明封筒使用により開封率を高める。
記録集発行	①2011年度以降の派遣活動及び特集記事をまとめた冊子を編集し、2012年12月に発送する。 ②ボランティア希望者や支援者拡大のツールとして、大学の図書館への配架などを積極的に進める。
ホームページ	①現ページを定期的に管理更新し、寄付や参加を促す。ユニークユーザー数100/日を目指とする。 ②2013年秋を目標に、今年度よりホームページのリニューアルの準備をする。
広報ツール制作	①リーフレット:2012年度は現リーフレットを活用。2013年度の刷新に向けて準備を進める。 ②活動紹介ビデオ:年度内に新紹介ビデオを制作し、会員・寄付者の増加に繋がるツールとする。
メールマガジン	活動に関心を持っている幅広い層に向けて情報を伝えるメールマガジンを隔週ペースで発行する。
オリエンテーション	当会活動を紹介し会員・支援者を募集する。同時に活動への参加を促す。
各種講義・講演	日本各地の組織、団体の依頼に応じて、当会活動や国際協力に関する講義を積極的に行う。
イベント出展	年15回程度出展し、活動を宣伝する。また、海外活動に関連した製品や図書等の物販を行う。売上目標は100万円。
カレンダー販売	カレンダー販売や宣伝活動を通じて当会の広報を行う。制作部数は約1200部、販売目標は750部とする。
絵画募集	①第11回カンボジア絵画展に出展する日本の小学生以上の絵を募集する。(目標:300点) ②2013年度に、日本の作品応募校へカンボジア絵画展の作品を貸出し、校内で展示/鑑賞してもらうための準備をする。
支援物資募集 及び海外輸送	①各種事業に必要な教材・備品(楽器、机・椅子)を募集し、年数回カンボジアに輸送する。 ②東京事務所にて随時楽器清掃ボランティアを受け入れる。また、月に1～2回の割合で楽器清掃日を設ける。 ③江東区及び海外リサイクル支援協会との3者協働事業を継続し、中古机・椅子、楽器の輸送を行う。
地域ネットワーク	会員から「地域サポーター」を募集し、広報モニター、資料配布、情報提供の活動を担ってもらう。2012年度末のサポーター人数は20名以上を目標。各サポーターの「地域に根ざした活動」を事務局がフォローする。
小山内美江子 国際ボランティア・ カレッジ	7期目の「国際ボランティア・カレッジ」を継続運営し、グローバル社会で生きることを志す人々に、国際NGO にふさわしい新しい学びの場を提供する。第7期は、受講生30名、聴講生250名を目標とする。 ①講義:2012年9月8日～2月中旬まで約70回 ②カンボジア研修:2013年2月下旬～3月中旬まで約3週間。
コーディネート	当会事業の見学や交流会を希望する会員、企業、団体、個人を受け入れ、活動を積極的に紹介する。

5 組織運営



目標	中期事業方針(8)、(9)、(10)の達成。
中期事業計画 (2012～14年度)	<p>①財源確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員の増加 2014年度末の会員総数1100人、会費収入は3年度で1500万円を目標とする。 ・寄付件数の増加:各年度1200件を目標とする。 ・企業・組織との連携を含め、財源確保に繋がる具体的な活動を新規で5件増やす。 <p>②協力団体提携 各種情報による連携を深め、中期事業方針に掲げた活動を充実・発展させる。</p> <p>③各種会議 各会議の繋がりを重視し、効率良い会議運営を目指す。</p> <p>④事業評価 過去に実施した評価から得た教訓等を中期事業計画に活かし、活動を充実・発展させる。</p> <p>⑤運営管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中期計画の進捗管理、「アカウントビリティ・セルフチェック(ASC)2008」(裏表紙参照)達成と管理を徹底する。 ・平時から役職員の情報共有を図り、現体制での事業対応能力を向上させる。 ・緊急時の事務局運営の対応マニュアルを完成させる。 <p>⑥職員教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 「役職員研修ガイドライン」による研修活用率(予算、時間)を各年度50%以上とし、運営能力を向上させる。
事業名	2012年度の活動内容、目標など
財源確保	<p>①当会が「認定NPO法人」であることの広報を積極的に行い、新たな支援者を集める。</p> <p>②学校建設、教育支援事業に関する対外的な提案活動を年間20件(個人、組織等)行う。</p> <p>③当会ホームページを活用した決裁システム利用を普及させ、会員、寄付者の増加に結びつける。</p> <p>④会員数を増加させるために、年間200件(個人、組織等)の入会依頼を行う。</p> <p>⑤助成金の情報を積極的に収集し、年間10件の申請を行う。</p> <p>⑥財源確保の手段として以下の活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書き損じハガキ、未使用切手、未使用テレホンカード等の募集。書き損じハガキは年間5000枚を目標。 ・500mlの空バックを再利用したりリサイクル募金箱シール配布(年間100枚)。 ・「JHP・藤原紀香カンボジア子ども教育基金」と連携して支援者を集める。 ・「アメリカン・エクスプレス・インターナショナル, Inc.」ポイント寄付プログラムと連携し支援者を集める。 ・「募金型自動販売機」設置による寄付獲得に取り組む。(年間10台) ・「ボランティア宅本便」(当会事業名「Book Smile」)の取り組みに参入し、寄付収入を増やす。
協力団体提携	<p>プロジェクト及び組織運営に関連した情報を収集するために、主に以下の組織、団体との協力関係を深める。</p> <p>①JEN、②アフリカへ毛布をおくる運動、③地雷廃絶日本キャンペーン(JCBL)、④カンボジア市民フォーラム、⑤教育協力NGOネットワーク(JNNE)、⑥国際協力NGOセンター(JANIC)、⑦江東区、⑧みなとボランティアセンター、⑨独立行政法人国際協力機構、⑩港区、⑪災害時の緊急募金時の支援団体(随時検討)他</p>
各種会議	<p>①会員総会(年1回)、②理事会(定例年5回)、③運営協議会(年20回)、④国際ボランティア・カレッジ教務会議(月1回程度)、⑤事務局スタッフミーティング(週1回)</p>
事業評価	2008年度実施した学校建設事業、2010年度に実施した教育支援事業の提言内容に対する成果を確認する。
運営管理	<p>①ASC2008の諸条項を、2012年度までに全てクリアできるように運営を改善させる。</p> <p>②事業運営の継続体制を高めるために、情報共有のための内部勉強会を年10回実施する。</p> <p>③当会の歴史、実績に関する各種情報や写真のデータ化を進める。</p> <p>④東京事務所を有効に活用し、役職員とボランティアの繋がりを深め、各種事業や活動の担い手を増やす。</p>
職員教育	「役職員研修ガイドライン」にそって、団体理念達成、事業実施、運営能力の向上に寄与できる人材を育てる。



**JHPは
認定NPO法人です**

2,000円を超えるご寄付は
税制上寄付金控除の対象となります

**JHPのホームページから、
クレジットカード(VISA/MASTAR)で、
会費・寄付金のお支払いができるようになりました!**



URLはこちら

http://www.jhp.or.jp/sanka/yomu/onlinenews.html#20110915_2